

日本語の感情・感覚表現と中国語の対照

潘 潔*

A contrast Between Japanese and Chinese Ways to Express Emotions

PAN JIE

Preface

To the beginners of Japanese, it may seem that sentences whose predicator are expressed by adjectives are the easiest, because this kind of sentences is similar to Chinese in both word order and meaning on the whole. But in addition to adjectives expressing properties and state of something there are a good many Japanese adjectives expressing emotions and perceptions. These words expressing emotions and perceptions are quite different from Chinese in use and sentence structure. So I would like to discuss the different ways of expressing emotions and perceptions between the two languages.

はじめに

日本語の初学者にとって、形容詞を述語とする句は易しく、中国語の語順とほとんど一致し、意味も大体同じだと思ふ人がいるかも知れない。しかし、日本語には性質と状態を表す形容詞の他に感情・感覚を表す形容詞も多い。又、感情・感覚を表す動詞もある。これらの感情・感覚の表現及びその文の構造は中国語と相違する。次に日本語と中国語との感情・感覚の表現について検討したい。

日本語の感情・感覚の表現は述語が形容詞であるものと、動詞であるものの二つにまず大きく分けることができる。

形容詞の感情・感覚表現

形容詞と形容動詞には主観的な感情・感覚を示すもの、いわゆる感情形容詞と総称され

* 教養部

ているものがある。その他に「飲みたい」、「買いたい」のように動詞連用形に形容詞の接尾語「たい」のついたものも感情形容詞によく似た性質があるので、これに準じるものとしている。

一、感情形容詞（動詞連用形+たいを含めて）の人称制約：

日本語の感情形容詞は言い切りの形では一人称しか主語に取れないという制限があり
二、三人称では何らかの変化が必要となるものが普通であるが、特別なものもある。

1・日本語ではそのままの形で平述文の言い切りの述語になる場合は、普通は話し手自身の感情・感覚しか表さないという制約である。感情・感覚を直接経験できるのは、自分自身であって、他人ではないからである。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 例：①私はうれしい。(0) | ①我高興。(0) |
| ②君はうれしい。(X) | ②你高興。(0) |
| ③彼はうれしい。(X) | ③他高興。(0) |
| ④私は今日早く家へ帰りたい。(0) | ④我今天想早点回家。(0) |
| ⑤君は酒が飲みたい。(X) | ⑤你想喝酒。(0) |
| ⑥あの子は外で遊びたくない。(X) | ⑥那個孩子不想在外面玩。(0) |

のように二、三人称につくことができないが、中国語では感情・感覚を表すものに人称上の制約はないから、人称に関係なく用いられるのである。

2・日本語では述語が質問の形を取っている時は、聞き手である二人称のあなたに限って

- 例：①あなたは寂しいか。
②あなたは何が飲みたいか。

のように用いられるが、中国語では質問の形は話し手以外に用いられる。

- 例：①你寂黙嗎？
②他寂黙嗎？

3・述語に話し手の推量、伝聞、解説の要素が加わる場合は、感情の主体として第三者が可能になる。

- 例：①一部の学生は旅行に参加したくないそうだ。
②田中さんはあなたに頼みたいのだよ。
③あの患者は一日中だるいらしい。

4・理由や条件を表す句や連体修飾構造の中でも、感情の主体に制約が見られない。

例：①痛かったら、この薬を飲んでください。

②読みたければ、その本を持って行ってもいいよ。

③あなたの食べたいものを用意したから、遠慮なく食べてください。

5・感情形容詞の過去形は人称に関係なく用いられる。これは感情は本来現在のもの
であるが、回想された時はすでに感情ではなく、知的な記憶だと言われるからである。
したがって、感情形容詞の過去形は話し手だけでなく、第三者の過去に起こった感情
を過去の事実として表すのにも使えるわけである。

例：①彼女は心から助けがほしかった。

②子供の喜ぶ時は、母親は心からうれしかった。

6・「好きだ」、「きらいだ」は好悪の感情を表すものであるが、普通の持続的な感情
である点で、他の多くの感情形容詞と違う特色がある。「好きだ」、「嫌いだ」が述
語になる場合は、どんな文でも人称に関係なく用いられる。

例：①私はお茶が好きだ。

②あなたはお茶が好きだね。

③彼女もお茶が好きだ。

二、感情・感覚の主体：

1・感情の主体、つまり感じ手は「は」で表すものもあるし、格助詞「には」によって
位格的に示されるものもある。

例：①私は犬が怖い。

②私はお金がほしい。

③私には故郷がそれほど懐かしくなかった。

④そのことが彼にはうれしかった。

「(感じ手)は (対象語)が 感情形容詞」から、「(感じ手)には(対象語)が
感情形容詞」への転換が成立する場合がかなりあるようであるが、感情形容詞の内では「好きだ」、「嫌い」、「ほしい」、「動詞連用形+たい」などのように能動性、
特に強い動詞寄りの性質を持っているものは、感情主体は「に」格を取れずに、常に
「は」格で表されることを求めるであろう。

例：①彼は彼女が好きだった。(0)

②彼には彼女が好きだつた。(X)

③私はお金がほしい。(O)

④私にはお金がほしい。(X)

⑤私はお酒が飲みたい。(O)

⑥私にはお酒が飲みたい。(X)

以上の例のように転換できない。

三、感情・感覚の対象：

感情が成立するには多くの場合に感情の指示が向けられる対象とか、感情を触発する機縁になるものがある。それを表す方法は二つに分けられる。

1・条件句などで表すこと。この場合は対象語は生じない。

例：①彼の留学生活を見ていると、うらやましくなる。

②あなたは兄弟が多くて、うらやましい。

③友達がなくて、寂しい。

④病気の母のことを考えると、悲しくなる。

⑤私は涙が出るほど、うれしい。

⑥みんなの見ているところどころなので、恥ずかしい。

2・対象語で表すこと。この場合は感情の向けられる対象語が、格助詞「が」で示されているのは、普通であるが、感情形容詞によって、対象語なしに成立しないものもあり、対象語を必要とすることも、必要としないこともあり、対象語を取らないものもある。

例 詞	感じ手	対 象 語	注 釈
好きだ	は	が(を)	対象語なしに成立 しないもの
嫌いだ	は	が(を)	
ほしい	は	が	

嫌だ	は、には	(が)	対象語を必要とする ものもあるし、必要と しないものもある。
恋しい	は、には	(が)	
うらやましい	は、には	(が)	
愛しい	は、には	(が)	
うれしい	は、には	(が)	
よろこばしい	は、には	(が)	
苦しい	は、には	(が)	
痒い	は、には	(が)	
痛い	は、には	(が)	
好ましい	は、には	(が)	
眠い	は、には	0	対象語を取らない もの
ねむたい	は、には	0	

表のように三種類に分けられる。

一類は対象語がないと、意味が成立しないものである。

二類は対象語を必要とする時もあり、対象語なしで成り立つ時もあるものである。

三類は体の内部的な原因によるものであるから、対象語を取らないものである。

3・「たい」場合の対象語のこと。動詞連用形に「たい」がついたものが文の述語になる場合は、「(は) + (が) - たい」と「(は) + (を) - たい」と、どのタイプを取るの正しいかは、次のように理解したらよいであろう。

A・「たい」で表される希望、欲求が明確に意識され、その対象を明示するために、「が」が用いられるのだと考えることができる。この場合は、表現者は対象語に重点を置くのである。

例：私はあそこに湧いている冷たい水が飲みたい。

これに対して、述語に重点が置かれている場合は、「を」で対象語を示される。

例：私も早くその本を買いたい。

B・動詞と対象語の間に副詞が来る時、動詞にも対象語にも焦点が置かれた場合は、「が」を用いられる。

例：①父が持ってきたお菓子がそれほど食べたいのではない。

②私は彼のことが一番知りたかった。

C・その行為が他人に及ぶような事柄を希望する場合には、つまり対象語が人間である場合は、「を」がそのまま用いられる。

例：①私は佐藤君を課長に推薦したい。

②ぼくは彼女を殴ってやりたい。

D・「漢語+する」の連用形に「たい」がつく場合は、対象語は「を」で示される。

例：①私は英語を勉強したい。

②私はこの問題を説明したい。

E・自分から外に向かったの放出、離脱を表す動詞の時（例えば、「入れる」「貸す」「教える」「話す」などは、自分から外に向かったの放出、離脱を表すものである。）この場合は「を」が用いられる。

例：①鞆に本を入れたい。

②英会話を教えたい。

外から自分に向かったの放出、離脱の場合は、「を」「が」両方とも用いられる。

例：①真相を（が）聞きたい。

②本を（が）かりたい。

日本語の感情形容詞に当たるものは中国語では動詞か動詞から転成したものがほとんどである。これらの動詞は、日本語の感情動詞のように他動詞と自動詞に分けられる。しかし、文の構造は完全違う。

日本語	中国語	例	文
ほしい（形）	想（動）	(日) 私は <u>英語</u> が <u>好き</u> だ。(中) 我 <u>喜</u> 歡 <u>英</u> 語。 対象語 述語 述語 目的語	
好きだ（形）	喜歡（動）		
嫌いだ（形）	討厭（動）		
怖い（形）	害怕（動）	(日) 私は <u>本</u> が <u>ほ</u> しい。(中) 我 <u>想</u> 要 <u>一</u> 本 <u>書</u> 。 対象語 述語 述語 目的語	
憎い（形）	憎恨（動）		

動詞の感情・感覚表現

一、一般に動詞は物事を話し手の側の事件として、描くという本性を持っていて、感情動詞の場合も客観的に叙述する傾向がうかがえる。感情を表す動詞を数多く集めて、その補語の取り方を観察すると、また二つのタイプがあることがわかる。

1・その一つは、「に」という形の感情の動きの誘因を表す補語を取るタイプのものがある。

五段自動詞	一段自動詞	サ変自動詞
驚く	脅える	安心する
泣く	うろたえる	びくびくする
酔う	腹が立てる	がっかりする
怒る	浮かれる	失望する
腹が立つ		がっくりする

以上のような感情動詞の感情が、表現や身体の動きとなって外面に現れる点に重点がある。その動きが一時的に生起し、次の瞬間にはあるいは暫くして、元の（通常）状態に戻るような性質を持ったものである点に意味的な特徴がある。そのような気の動きにとって、一次的に問題となる補語は感じ手の他には「に」という形を取る誘因であったが、条件句を取る場合もある。

例：①死んだと思っていた兄が外国から帰ってきたので、驚いた。（条件句）

②君の知識には全く驚いた。（誘因）

③歓喜に酔った。（誘因）

2・もう一つは「を」という形の感情の向かう対象を表す補語を取るものである。この種の動詞の多くは前に述べた感情形容詞と語根を共にする。（どちらか一方が現代ではもう普通には使われなくなっているものも多い。例えば、「うれしい」に対する「うれしむ」、「ほしい」に対する「欲する」、などである。）

同語根感情形容詞と動詞の対照

感情動詞	感情形容詞	感情動詞	感情形容詞	感情動詞	感情形容詞
悲しむ	悲しい	苦しむ	苦しい	楽しむ	楽しい
いとしむ	いとしい	惜しむ	惜しい	懐かしむ	懐かしい
うらやむ	うらやましい	好む	好ましい	望む	望ましい
恨む	恨めしい	憎む	憎い	喜ぶ	喜ばしい
恥じる	恥ずかしい	妬む	妬ましい	恋する	恋しい

能動的な心動き、積極的な感情の発動を描く動詞は、それぞれの感情の対象を補語として要求し、それは「を」という形を取る。

例：①外国へ行って夏休みを楽しもうと思っている。

②その男の子は友達の新しいオートバイを羨んでいる。

二、「がる」、「たがる」という接尾語を付けて作り出した感情動詞：

感情形容詞に「がる」を付けて、動詞連用形に「たがる」を付けて作り出したものも動詞として扱われるが、「ほしい」に対する「ほしがる」は、「たい」に対する「たがる」と全く同様である。ところで、「ほしい」、「たい」が述語になる文が話し手自身に関する場合に限られるが、「がる」、「たがる」の場合は一般に第三者の希望、欲求を表すのに用いられる。

1・形容詞に「がる」が付いて、ただ「と思う」、「感じる」という意味に使われる場合が多いようであるが、形容詞の表している気持ちや内的状態にあることを外的な態度、言動などに強く表すことを意味すると考えられる。したがって、話し手自身の主観的な非公共的な状態を基本的には表す感情形容詞も、「がる」がつくことによって第三者の表現に転じることはうなずけるわけである。

例：①そんなものを見ると、子供がほしがるよ。

②この子は母親がちょっといなくなると、すぐに寂しなって泣くのだ。

③犬は私達が怖がって逃げるから、後を追っているんだ。

のように、感情を言葉や表情に表したり、それを相手にも伝えようとする場面によく使われる。

2・動詞連用形に「たがる」がつくと、一般に第三者の希望、欲求を表すのに用いられる。話し手が観察者的な立場に立って、第三者についてある希望、欲求を抱いている状態が認められることを表すのである。つまり、第三者のある程度持続的な心情をとらえて述べるのに用いられるのが、普通だということである。

例：①子供は嫌がっているのに、無理に進学させたがる親がいる。

②私の友達は北京へ行きたがっている。

③子供はだれでも大人の真似をしたがるものだ。

ところで、希望を表す表現として、一人称には「たい」、三人称には「たがる」を用いるといった単純な解釈は、必ずしも当たらないものであることに注意する必要がある。

例：①あなたが食べたがっていたから、買って来たよ。

②冬にはあなたはすき焼きを食べたがっていたね。

のような相手の希望、欲求を「たがる」によって表している例である。これも第三者について用いる場合と同様に話し手の目から見て、相手の言動などから、そのような欲求を抱いていることが明らかだと判断できる状態を表すものである。

例：①あのころは休みになれば、山に登りたがったものだ。

②子供のころ、私は人の食べている物を食べたがった。

のような話し手自身のことについて、「たがる」を用いている例である。過去を振り返って、その時どんな心情であったかを回想する場合、自分自身に関することでも「たがる」が普通に用いられる。

おわりに

日本語の感情・感覚は人称の制限があるから、いろいろな形態変化と派生されるものがあるが、中国語の感情形容詞も全く形態変化をもたないわけではない。中国語に見られる「重ね型」と言われるもので、「高高兴兴」「高兴高兴」、「快快乐乐」「快乐快乐」のような「AABB」「ABAB」という二音節の重ね型をもつのが一時的な様態

を示すとすれば、瞬間的に終わるようである。意味上には日本語の形態変化と全然違うのである。したがって、中国人は日本語を学習するさい、よく誤用するわけである。

以上は、日本語の感情・感覚表現と中国語の対照について簡単に検討したが、日本語を勉強する方に役立つことができれば、幸いである。

主な参考文献

- 1) 「現代中国語辞典」 香坂順一
- 2) 「学研国語大辞典」 金田一春彦、池田弥三郎
- 3) 「岩波講座日本語6」 川端善明
- 4) 「岩波講座日本語7」 北原美紗子
- 5) 「中国語分類単語集」 沢山晴三郎
- 6) 「中国語語法」 藤山和子
- 7) 「外国人の誤用例」 森田良行

(平成4年11月16日受理)